



楷

第四十二号

岡山大学
 附属図書館報
 OKAYAMA UNIVERSITY
 LIBRARY BULLETIN

KAI
 No.42
 2006
 FEBRUARY

<写真>

おのミ鳥

大サ雀ホドニシテ嘴短シ好テ麻ノ實ヲ食フ群ヲナス鳥ナリ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

目次

岡山大学附属図書館を取り巻く周囲環境（附属図書館長 稲葉英男）.....	p. 2
学術情報基盤（大手出版社等）の利用状況について （電子情報係長 北條充敏）.....	p. 5
池田家文庫等貴重資料展（学術情報サービス課）.....	p. 8
附属図書館中央館の教育用パソコンの利用について（学術情報サービス課）.....	p.10
岡山大学の学術機関リポジトリの形成に向けて（電子情報係長 北條充敏）.....	p.11
マスカット	p.12
貸出資料に関する連絡、データベース講習会、自然史博物館まつり、ほか 会議・研修・編集委員会から	p.14

岡山大学附属図書館を取り巻く周囲環境

稲葉 英男

今日の情報化社会の進化に伴い、電子ジャーナルに代表される電子情報とインターネットの普及により、教育研究基盤施設としての大学図書館は膨大な情報を収集整理し、利用者である学生や教職員に迅速且つ効果的に提供すると同時に、必要とされる情報関連のサービスを組織的に行う必要に迫られております。すなわち、学術情報の電子化の進展とともに、電子ジャーナルの出現等情報流通形態に大きな変革をもたらし、利用者の情報探索行動が大きく変化しつつある。このような状況において、岡山大学附属図書館は、学習図書館や研究図書館機能を兼ね備え、国内外と学術情報ネットワーク機能を有する総合学術情報センターとしての新たな役割が求められており、その成否が岡山大学の教育研究の競争力を左右する重要な鍵となることは疑いのないところである。

ここで、電子情報化時代を迎えた大学図書館を取り巻く状況を紹介しながら、岡山大学附属図書館の向かうべき方向を概観してみましよう。

(1) 電子図書館の展開：

電子図書館（Digital Library）とは、「電子的情報資料を収集・作成・整理・保存し、ネットワークを介して提供するとともに、外部の情報資源へのアクセスを可能とする機能を有するもの」を指すが、利用者は基本的に図書館に向くことなく、的確・迅速かつ時間に制約されずにサービスを受けることができる。すなわち、電子図書館は、蔵書や文献資料と言ったコンテンツや目録そして所在等の情報をネットワークを介して検索提供するシステムと言える。このような検索機能と蔵書等の全ページを電子化することにより、全ての内容を参照することが可能となり、さらに、蔵書等に記載されている文章や記事そして図表なども検索の対象に出来る特徴を有するものである。

電子図書館のメリットは、・貴重資料の保存と有効利用可能（貴重資料の死蔵回避）、・資料保存スペースの節減と資料保存機能の向上、・任意の時間・場所で複数の利用者による同時利用の可能、そして・資料のマルチメディア化やハイパーテキスト化で新たな利用形態やサービスの展開等がある。一方、電子図書館のデメリットとしては、・著作権処理の問題、・セキュリティの確保、そして・プライバシーの保護等がある。

このような電子図書館へ向けてある大学図書館では、到着した学術雑誌を電子化して、学内の研究室端末から読めるようにしたり、インターネットの整備された学術情報センター内に大学図書館を組み込むようなことが行われている。

(2) 出版社による国際学術論文誌の寡占化と価格の上昇：

学術情報を取り巻く環境の変化は学術分野全般に及び、英文論文は世界シェアの12%を誇っている。日本人の英文論文の内80%が海外に流出していると言われている。海外に流出した多くの研究論文は、科学研究費補助金等の多大の国費を投入して得た研究成果であり、諸外国の出版社だけが利する現状にあり、購入費の高騰で流通過程にも支障をきたしている。外国の出版社等が発行する学術雑誌の価格は、1980年代以降一貫して上昇を続けており、並行して発行される電子ジャーナルの価格についても毎年平均8%程度の上昇が継続しており、これにより図書館資料費が圧迫され、

数年内にも現在のタイトル数の維持は困難になることが予想される。現在、世界の科学技術分野の国際誌は、大手の出版社だけで1,200以上のタイトルを抱え、これら多数の国際誌が市場で競っていると言える。この中でインパクトファクターが1を越え国際的に高い評価を得ているものは少数で、国内学協会が発行する国際誌でインパクトファクターが1を越えるものは希である。このような現状を踏まえて、国立情報学研究所は日本の学協会が刊行する学術国際雑誌の電子ジャーナル化を強化することによって、海外へ流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を促進する事業「国際学術情報流通基盤整備事業」を開始している。

(3) インターネット図書館構想：

人類の知的遺産の集積とも言うべき書籍をめぐり、米国のインターネット企業が激しい争いを始めている。検索サービス最大手企業が「インターネット図書館 (Virtual Library)」の設立に向けての活動として、著作権の切れた蔵書約1万冊の電子化作業を進めている。インターネット図書館は、各分野の専門家が学術系のサイトを中心に体系的に情報の収集・蓄積・活用を意図したもので、一般のインターネットの検索エンジンの機能とは少し異なるようである。世界の図書館の貴重な蔵書が、強力な検索エンジンの出現により、オンラインで手軽に読めるようになる画期的な試みだが、著作権の問題やネットの覇権争いもからみ、様々な波紋を投げかけている。現在、民間企業が著作権者の許可無しに、書籍の内容の全てを電子情報として溜め込むことに対する訴訟が起きている。この独占的な世界の情報拠点構想に対する訴訟の行方がどうあろうとも書籍情報の電子化の流れは止まらないようである。

このような動向から、近未来の図書館は、書籍とインターネットの両分野で役割を果たす時代が来るようである。インターネットの普及で図書館不要論もささやかれるなか、大学図書館改革は拍車がかかりそうである。国立大学図書館協会は、数年前から日米や日韓の大学図書館をネットワークで結び、他大学であっても加盟大学なら蔵書のコピーを電子メールで入手できるサービス「ドキュメント・デリバリー・サービス」を始めている。また、ある大学では、県立図書館とネットワークでつなぎ、県立図書館から申し込んだ利用者に同大の蔵書の貸し出しやコピーを行うサービスを始めつつある。

(4) 機関リポジトリ構想：

大学内で電子的に生産される研究資料（学位論文、研究成果報告書、紀要等）過去の資料を電子化した資料（貴重資料等）シラバスや電子的教材（e-learning教材等）等を、大学図書館が中心となり蓄積保存して、メタデータ（体系的な情報検索目録）を付すことによってインターネットを通じて広く利用者の便に供する「機関リポジトリ」への取組が、教育研究活動を一層推進し、大学からの情報発信を強化する方法として、世界的に進みつつある。我が国においても一部の大学でその取組が始まっている。大学からの情報発信力の強化や、大学の社会に対する説明責任の履行の観点からは、一つの有用な手法であると考えられる。

(5) 岡山大学附属図書館の情報化への対応：

電子ジャーナルの普及、所蔵資料のデジタル化等、学術情報流通における電子化はこの十年急速に進展し、この傾向はさらに顕著になるようである。岡山大学図書館においても、全学的協力のも

とに、電子ジャーナル・データベースの積極的な購入を図り、11,499タイトル（含む無償分、国立大学3位）となり、全国有数の電子ジャーナル化図書館となる。しかしながら、電子ジャーナル価格の定常的な値上げ（毎年8%程度）や円安等から、今後購入タイトル数の削減や他大学図書館間とのコンソ - シアム形成による共同購入などでの対策を取る必要に迫られている。ちなみに、図書購入予算（約3億円）の約90%は電子ジャーナル・データベース等の購入費で、学生用図書（冊子）は10%の割合である。

インターネットや検索エンジンの普及により、多くの電子情報源がネットワークで提供され、利用者がハイパーリンク機能を通じて直接一次情報を入手できるようになった。本学図書館においても、このようなニーズに応えるべく、平成17年度に総計70台のパソコンを導入して、図書館内においても電子情報の入手ができるように、利用者の便を図りつつある。さらに、平成17年度国立情報学研究所最先端学術情報基盤の構築推進委託事業に岡山大学附属図書館が選定され、岡山大学においても前述の機関リポジトリ構想が実現することになり、電子化に向けての流れが加速しそうである。

以上、大学図書館を取り巻く周囲環境の電子化の流れとそれに対する本学図書館の対応の現状について述べました。法人化した岡山大学の経営が多様化しても、岡山大学図書館はその目的である高等教育と学術研究活動を支える重要な役割を持つ学術情報基盤であり、岡山大学活動の死命を制する極めて重要な組織・機能を有することをご理解願いたい。また、図書館員の業務も、従来の紙媒体を主体にしたものから電子化にむけたハイブリット図書館への移行が急速に進むことになり、その業務内容も多様化、高度化、効率化への対応活動を進めつつあり、岡山大学教職員や学生諸君の岡山大学図書館へのご支援やご協力をお願いする次第である。

（いなば・ひでお 附属図書館長）

学術情報基盤(大手出版社等)の利用状況について

北 條 充 敏

学術情報の電子化とインターネットの普及が進む中で、世界中の研究機関や大学において、先端的な研究や技術開発を行う研究者にとって、電子ジャーナルやデータベースはなくてはならない学術基盤の一つとなっている。電子的な情報コミュニケーションがなかった時代と異なり、今日では24時間必要な時に必要な情報を誰よりも迅速に入手することが求められる時代となった。

岡山大学は、このような学術情報をめぐる世界規模の変化に対応し、学術情報基盤として学内研究を支援するため、平成16年9月教育研究評議会による全学的なご理解により、平成17年1月から電子ジャーナル、データベース、学生用図書からなる学術情報基盤整備を行った。

電子ジャーナルタイトル数の増加と全文アクセス数

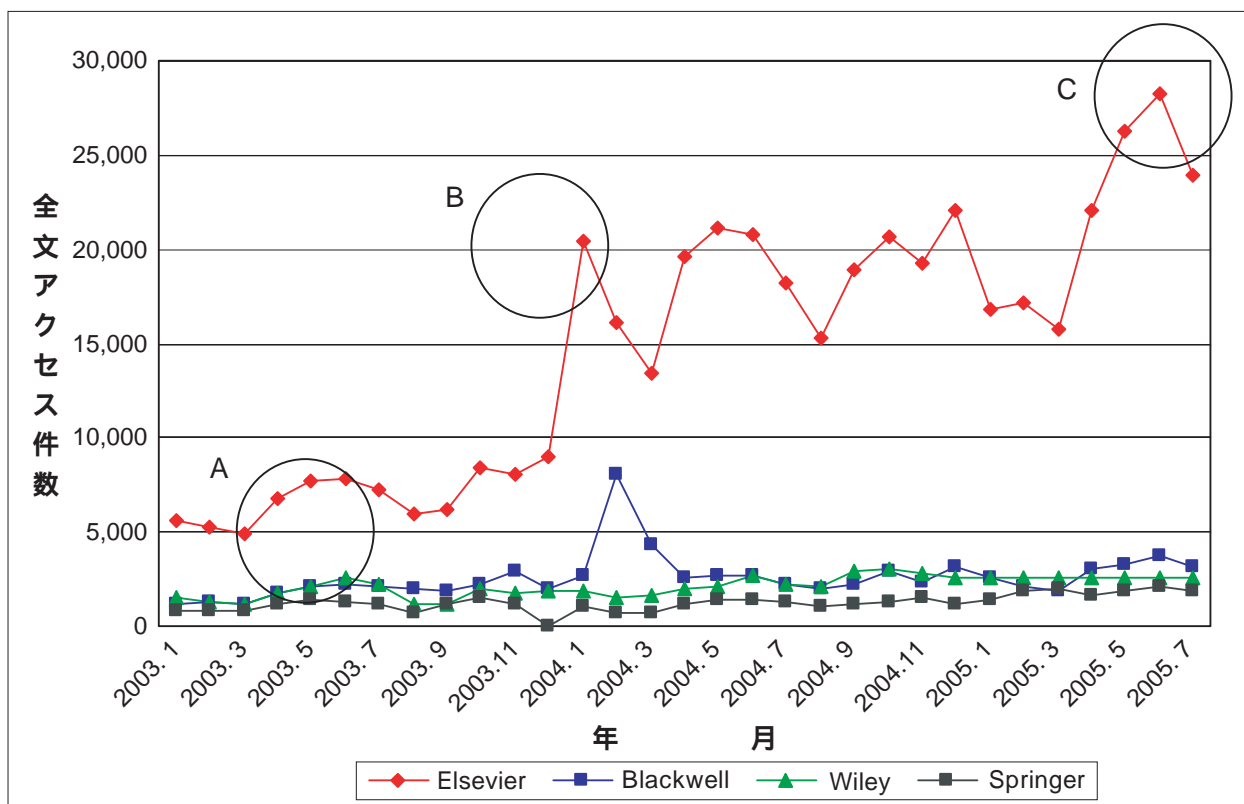
岡山大学では、平成16年度約3,000タイトルだったタイトル数を、平成17年度は約6,000タイトルまで増やした。購入した電子ジャーナルのうち、大手出版社の電子ジャーナルが全体の約80%を占めているが、頻繁に利用されるタイトルの多くは学会系電子ジャーナルやNature誌が占めている。

(平成17年9月現在)

区 分	タイトル数	有償タイトル数の割合	全文アクセス数
大手出版社	4,600	79%	213,800
その他	1,200	21%	208,895
フリージャーナル	10,000以上		

大手出版社電子ジャーナルは数多くのタイトルをパッケージとして購入しているが、果たして利用は伸びを示しているのだろうか。大手電子ジャーナルの全文(PDF/HTML)へのアクセス数を、2003年1月から経年変化としてまとめたグラフを下記に示す。

グラフ中に示す赤線は、大手出版社 Elsevier Science Direct の利用動向を示す。ライフサイエンスのみ(約400タイトル)を購入していた時期がA、2003年1月からはエルゼビア全タイトルを導入し、月あたりの利用件数は20,000件までに増加した。更に、2005年からは学術情報基盤整備を行い、Bの時点よりも更に5,000件の増加を示した。確実に電子ジャーナルが岡山大学の研究活動に定着していることを示すものである。



「SciFinder Scholar (CAS)」の利用動向

自然科学系のデータベースとして、数学・物理・化学・医学分野のデータベースを学術情報基盤経費で購入しているが、今回は特に利用が多い化学情報総合データベース「SciFinder Scholar (CAS)」の利用動向について紹介する。

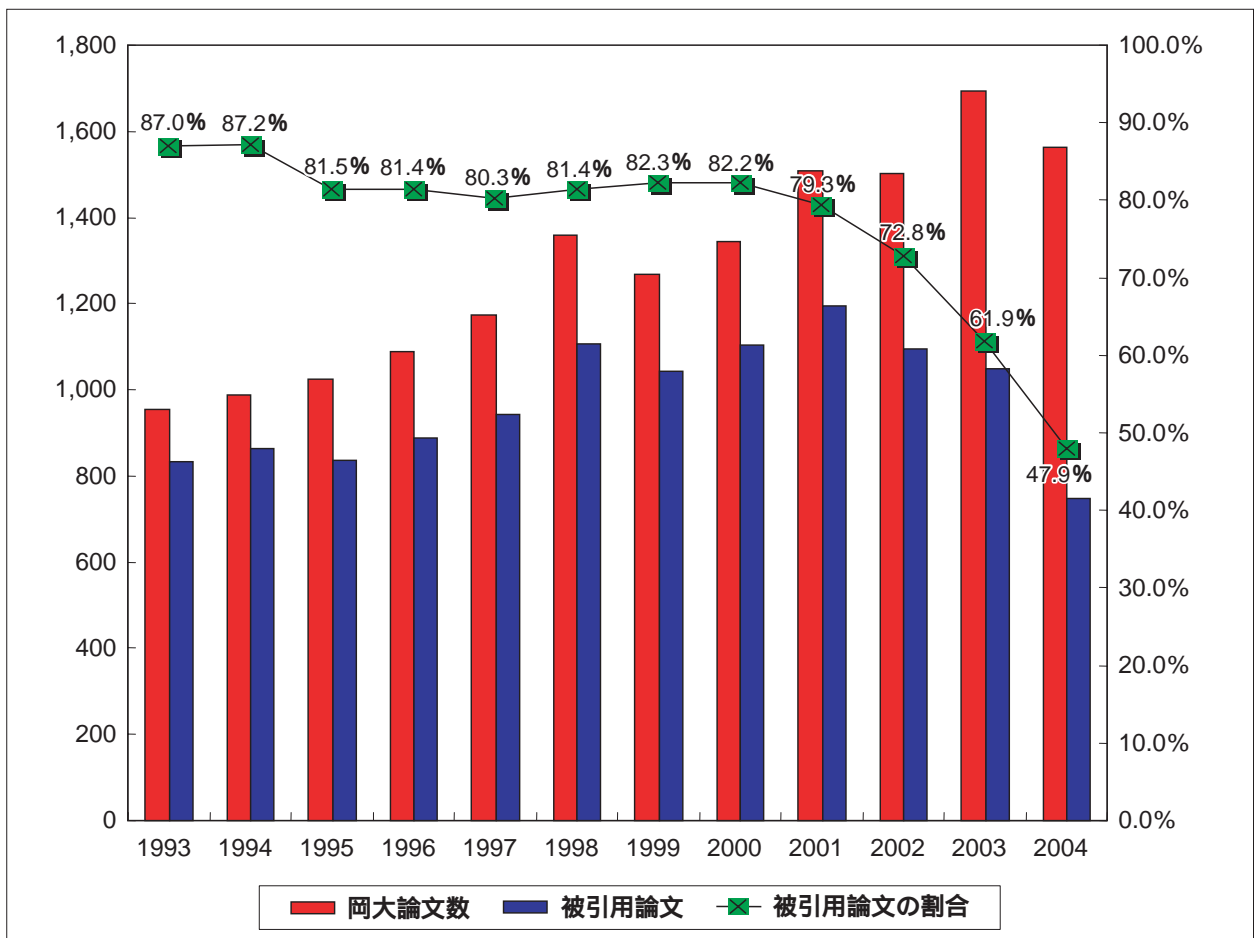
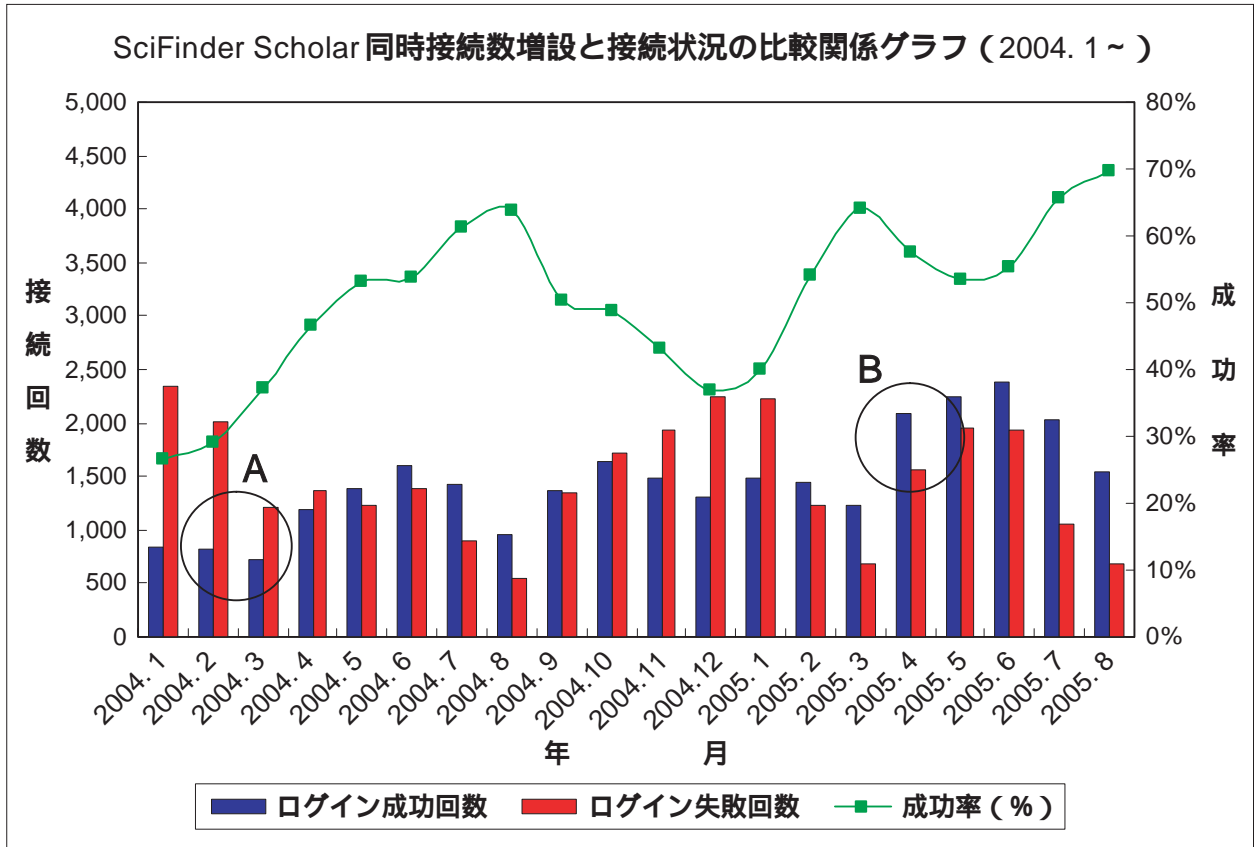
「SciFinder Scholar (CAS)」は、化学分野における学術情報（文献情報、反応情報、化合物、試薬等）を検索するための、化学研究に不可欠の基本データベースである。本学における本データベースのサービスは、2002年1月から同時接続1の条件（津島・鹿田地区）で開始した。しかし、この条件では接続しようとしても、誰かが使っていて使えない状況が数多く発生した。そこで、2004年4月からは同時接続2、更に2005年4月からは同時接続3（部分構造検索オプション付）の整備を行った。

下記に示す利用実績グラフから見ると、2004年1月から3月の同時接続1の時期（A）に比べ、明らかにデータベースへの接続成功回数（青色）が増えて、接続失敗回数（赤色）が減少していることがわかる。データベースへの接続成功率は、改善前が30%未満だったのが、2005年4月以降（B）では50%以上の確率でデータベースを利用できるようになった。

ま と め

岡山大学から発表される研究成果を、Web of Science (SCI) から抽出して年度別にグラフに示す。岡山大学の場合、Web of Science (SCI) に収録される論文数は毎年伸びを示している。また、全体の約80%近くの論文は他論文から引用されていることがわかった（但し、自己引用を含む）。この伸びを維持・発展させるためにも、岡山大学の学術情報基盤としての電子ジャーナル・データベースを維持していく努力をつづけなければならない。

（ほうじょう・みつとし 電子情報係長）



池田家文庫等貴重資料展 「江戸時代の岡山 ～池田家文庫絵図名品展～」

学術情報サービス課

『絵図展示会』

例年、図書館で開催していた資料展を、今年は岡山駅西口に新しく開設された「岡山市デジタルミュージアム」4階企画展示室で開催しました。岡山大学附属図書館が所蔵する池田家文庫の約三千点の絵図の内から、特に優れた江戸時代の絵図の展示で、とりわけ、現在に至る岡山の歴史や文化、あるいは岡山城と城下町、児島湾干拓地など岡山の成り立ちを知ることのできるものが中心で、複製を含め19点を展示しました。

テーマ：江戸時代の岡山 ～池田家文庫絵図名品展～

期 間：平成17年9月29日(木)～10月10日(月) 10：00～20：00

今回も、企画・構成は、文学部倉地教授にいただきました。パンフレットも倉地教授に原稿を書いていただきました。ポスターは、図書館職員の手作りです。展示は、デジタルミュージアムの学芸員の方々のお世話になりました。そして、学芸員の方々のご指導のもと、岡山大学の学生さんもボランティアで参加され、一部ですが「子供にもわかりやすい」キャプションも作成していただきました。このキャプションは、大好評でした。

展示会場には、「会場係」として、岡山大学の卒業生で日本史を専攻された方々にお願いして、来場者の対応にあたっていただきました。説明を受けた方々からは「よくわかった」と好評でした。岡山市と岡山大学が文化事業協力協定を結んだことで、地の利も良い岡山駅近くで開催でき、図書館で行っていた時と比べると、とても大勢の方々に見ていただけました。延人数3,312人（去年は461人）でした。岡山市主催の「桃太郎展」が同時に開催されていた事、入場料が無料だった事も影響したことと思います。

アンケートも1,626人の方々にご協力いただき、貴重なご意見をいただきました。ここにそれらをまとめて報告します。

<来場者統計>

年 齢

0～10歳代 6.6% 20歳代 10.2% 30歳代 13.2% 40歳代 15.4%
50歳代 18.2% 60歳代 22.0% 70歳代以降 14.4%

来場の情報源（複数回答）

新聞 19.2% 雑誌 0.4% 口コミ 15.6% TV 16.0% ポスター 11.1%

その他 37.7%（その他の内訳：通りがかり、たまたま来たら、桃太郎展に来て、大学の案内・広報、岡大図書館HP、講義で）

来場理由（複数回答）

内容に興味 35.2% 周辺に来た 18.4% 時間的余裕 24.0% 会場が近い 13.1%
ワークショップ参加 3.5% その他 5.9%

（その他の内訳：デジタルミュージアムに来た、講義の課題、誘われて）

展示内容

とても良い 25.0% 良い 47.2% 普通 21.8% 物足りない 5.9%

展示点数

少ない 26.4% 適当 71.6% 多い 2.0%

解説内容

易しい 20.3% 適当 67.9% 難しい 11.9%

その他意見など

- 資料に書いてある字がよくわからなかった。現代文にして欲しい。
- 昔の地名が残っていたり、変わっていたり興味深かった。
- 歴史のある旧町名を復活させて欲しい。
- 絵図の複製のコピーが欲しいが入手方法は？
- 郷土の歴史を知る上で非常に参考になった。
- 動植物の絵図は初めて見た。庶民の生活の様子などがわかるものがあれば、わかり易い。
- 会場に来て展示会を知った。宣伝をもっとして欲しい。

「物足りなかった」という感想も一部いただきました。会場の照明については、年齢によって感想がはっきり分かれています。年配の方からは、「暗くて見づらかった」というものが大半でしたが、若い方からは、「落ち着いていてよかった」というものがほとんどでした。全体的には、今後も続けて欲しいとのご意見を皆様からいただいています。

10月1日(土)には、絵図展に関連した講演会及びデジタルミュージアム主催の講座が催されました。

『講演会』13:30~15:00

講師：岡山大学文学部 倉地克直教授

演題：池田家文庫絵図の見方

入場者：106名

多くの方が参加され、講義室は満席でした。講義は次のような内容で行われました。(1)池田家文庫と絵図、(2)近世絵図の特徴、(3)近世絵図の見方、(4)展示絵図について……皆さんなりの目で楽しんでください。講演後の感想は、「講義は大変面白く勉強になった」「講演を聴いて絵図をみると、より理解できた」との感想がほとんどでした。

『ミュージアムジュニア講座・ワークショップ』10:30~11:15

テーマ：まず、絵図・地図～絵図・地図と遊ぼう～

参加者：30名程度（うち小学生5名程度）

岡山市デジタルミュージアムの山本先生、学芸員さんにより、展示品を見せながらわかり易く解説されたり、床に敷かれた現在の航空写真に江戸時代の絵図を参加者に対応させる等が試みられ、子供たちは、戸惑いながらも楽しそうでした。

『ミュージアム講座』11:20~12:00

テーマ：池田家文庫資料の教材活用

参加者：11名

池田家の絵図を小中学校の教材として活用しよう企画されたもので、高精細デジタル画像の提示や工学部梶原助教授による江戸時代の街並みをウォークスルーするバーチャルリアリティが提示されました。

附属図書館中央館の教育用パソコンの利用について

学術情報サービス課

このたび中央館で利用提供される70台のパソコンは、教育目的の利用のため、総合情報基盤センター（以下センターという）が設置するものです。センターにある実習室のパソコンと同じOfficeソフトが使えます。

パソコンの利用に際しては利用者認証がありますので、あらかじめID・パスワードをご確認ください。

図書館では開館時間中は夜間・休日でも利用できます。レポートや発表資料の作成、電子ジャーナル閲覧や文献調査に、大いにご利用ください。

設置場所と利用時間等

設置場所	本館 1 階	新館 1 階（AV 演習室）
設置台数	28台	42台
利用時間	開館時間中オープン利用	平日 9 : 00 ~ 20 : 00 オープン利用 （講義使用時間を除く）
利用登録	必要	
利用申込	不要	不要（講義使用はセンターへ）
プリンタ	なし	2 台
プリンタ用紙		持ち込み
年間プリント枚数		1 ユーザー400枚まで
定期点検日	館内整理日	
冷暖房	閲覧室と同じ	
インストール済みソフト	Internet Explorer（インターネット閲覧）、Word（文書作成）、Excel（表計算）、Access（データベース）、PowerPoint（プレゼンテーション）、Adobe Reader（PDF 閲覧）、AL-Mail（電子メール）	
お問合せ先	データベースの使い方など図書館提供のサービスに関する質問は図書館カウンターへ、それ以外はセンターで受け付けます。	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育用に提供される共用の資源であることを十分認識して利用してください。（ソフトのインストールやダウンロードをしない、利用後はソフト・パソコンともきちんと終了させる、など） ● ゲームやオークションなど、設置目的外の利用はお断りします。 ● フロッピーディスクなどメモリ類を持参して使うときは、始めに必ずウイルスチェックをしてください。 ● 学外者は利用できません。 	

学術機関リポジトリの形成に向けて

北 條 充 敏

「機関リポジトリ」とは？

機関リポジトリとは、大学や研究機関による活動によって得られた研究成果・教育資源等の電子的に作成された成果情報を収集、電子的に蓄積・保存し、原則的に無償で利用に供することを目的とした、インターネット上のデータベースです。学術雑誌掲載論文や、大学の紀要、会議録、研究報告書、プレプリント、ワーキングペーパー、テクニカルレポート、学位論文、シラバス、授業資料、広報物などさまざまな、機関の成果情報を機関リポジトリに登録し、世界に向けて発信することができます。

我が国の学術情報政策と機関リポジトリ

文部科学省が我が国の科学技術・学術振興政策を諮問するために設置している科学技術・学術審議会の下部組織である学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会は、平成17年6月「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について（中間報告）」の中で、大学の学術情報発信拠点として大学図書館は、「機関リポジトリ」への取り組みを通じて、大学の情報発信力の強化や、大学の社会に対する説明責任の履行を果たすべきと報告されています。

この報告の流れに沿うように、同年9月には国立情報学研究所を中心にしてCSI（サイバー・サイエンティフィック・インフラストラクチャ）構築推進委託事業による学術コンテンツ（機関リポジトリ）の整備を行う委託大学として、19大学が選定されました。岡山大学も委託大学に選ばれ、委託大学として機関リポジトリの構築に向けた活動を、平成17年10月に岡山大学電子図書館研究開発室員を選任し、本格的な活動を始めました。平成18年4月からは岡山大学学術成果リポジトリとして、正式運用を開始する予定です。

機関リポジトリに掲載すべき情報とは？

機関リポジトリに掲載すべき論文情報には、大きく分けて2つあります。一つは、学内で出版された学術紀要類に掲載されている論文や博士課程学位論文です。他方は、学外の出版社や学協会などに投稿・出版されている論文です。双方の場合ともに、論文を機関リポジトリに掲載するためには、著作者に著作権（複製する権利及び公衆送信する権利）の許諾を得る必要があります。

著作権を処理する方法として、著作者に許諾を得ることが基本となりますが、学内著作物の場合は、著作者から学内編集部局に著作権が譲渡されるように投稿規定を変更したり、日本数学会のように学術組織としての「著作権の考え方」を明示し、疑問のある学会員には申し出てもらう方法があります。

一方、後者の場合は、多くの場合において出版社や学協会側に著作権を譲渡しているケースがほとんどを占めています。しかし、海外を中心とする最近の出版社・学協会の傾向として、著者自身が最終原稿をインターネット上で公開することを認めるという動きがあります。具体的には、海外のこれらの状況を調査したプロジェクトがあり、その結果がプロジェクトホームページから公開されております。

（ほうじょう・みつとし 電子情報係長）

マスカット

貸出中の資料に関する図書館からの連絡方法について（中央館）

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。それに伴い図書館では利用者に対する連絡方法を下記のようにし、図書館をご利用の場合にはこれに同意したものとさせていただきます。

貸出中の資料の問い合わせ	これまでどおり、本人以外にはお知らせしません。
貸出中の資料の延滞に対する督促	<p>1. 館内掲示 適切な時期に、図書館内の掲示板において、督促対象者と明記の上、その資料が返却されるまで、氏名（学部を含む）の掲示を行います。</p> <p>2. 郵送による督促 督促の旨を記載した督促状を郵送します。督促状に記載された延滞資料の情報（資料ID、タイトル）はシール等により保護します。</p> <p>3. 電話、電子メールによる督促 掲示、督促状による督促に応じない場合、もしくは本人に連絡がつかない場合には、家族、指導教員、学務事務担当者などに、氏名、延滞期間・冊数等（資料タイトルを除く）の伝言を依頼します。至急の返却が必要とされる資料を延滞している督促対象者には、電話、電子メール（家族共有のアドレスを含む）による督促を行う場合があります。</p>

データベース等利用講習会報告

平成17年9月から10月にかけて、データベースおよび電子ジャーナルについて講習会を開催しました。開催結果の詳細は以下のとおりです。

来年度も各種講習会を開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

講習会等名称	開催日	開催地区および回数	参加人数
Web of Science 利用講習会	9 / 29(木) ~ 30(金)	津島 4 (自然3、人社1) 鹿田 1 (医歯1)	78
Elsevier Science Direct 利用講習会	10 / 6(木)	津島 1	35
MD Consult 利用講習会	10 / 12(水)	鹿田 1	12
LEX/DB インターネット利用講習会	10 / 13(木)	津島 1	10
OVID 利用講習会	10 / 20(木) ~ 21(金)	津島 4 (自然2、人社2) 鹿田 2 (医歯2)	69
Lexis.com インターネット利用説明会	10 / 27(木)	津島 2	7
医中誌 Web 利用講習会	10 / 31(月)	鹿田 1	4
計		17	215

自然史博物館まつりへの参加報告（資源生物科学研究所分館）

平成17年11月3日(木)に行われた倉敷市立自然史博物館主催の「第5回自然史博物館まつり」に、資源生物科学研究所も広報活動の一環として参加しました。今回はパネルを掲示して分館の概要を紹介するとともに、大原農書文庫の『朝顔画報』『契花百菊』を元に作成した花の絵葉書をご来場の方々に配布しました。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

中央館 教員業績コーナー（本館1階）に配架

石田米子（共編）[名誉教授]

黄土の村の性暴力：大娘たちの戦争は終わらない 創土社，2004 (222.075/K)

大崎紘一（共著）[名誉教授]

画像認識システム学 共立出版，2005 (007.13/G)

大濱しのぶ [法学部]

フランスのアストラント：第二次世界大戦後の展開 信山社出版，2004 (327.62/O)

河野伊一郎 [名誉教授]

岡山大学長退任トーク：私の一期一会 西日本法規出版，2005 (289.1/K)

菅原 稔 [教育学部]

戦後作文・綴り方教育の研究 溪水社，2004 (375.86/S)

関根正美（共訳）[教育学部]

フェアネスの裏と表 不昧堂出版，2000 (780.1/L)

西田和弘（分担執筆）[大学院法務研究科]

やさしい社会福祉法制 嵯峨野書院，2005 (369.1/Y)

資源生物科学研究所分館

井上成信（分担執筆）[名誉教授]

設施園藝學 台北市七星農田水利研究發展基金會，2004 (330/166)

（敬称略五十音順）

会議

学外

17. 8.25 ~ 8.26
名古屋大学電子図書館国際会議
(於 名古屋大学野依記念学術交流館)
・国立国会図書館の電子図書館計画、その他
- 9.20
千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)
公開記念シンポジウム
(於 千葉大学大学院社会文化科学研究科)
・機関リポジトリの可能性をさぐる、その他
- 9.29
岡山県大学図書館協議会平成17年度
第2回総会(於 岡山大学附属図書館)
・岡山県大学図書館協議会研修委員会内規の
改正について、その他
10. 6
平成17年度国立大学図書館協会中国四国地区
協会実務者会議(於 島根大学附属図書館)
・図書館が図書館であるために図書館員は何
をすべきか
- 10.20 ~ 10.21
第46回中国四国地区大学図書館研究集会
(於 香川大学附属図書館)
・大学図書館の学習支援
- 11.11
平成17年度中国四国地区国立大学図書館
所管部課長会議(於 岡山大学附属図書館)
・図書館活動の近況について、その他
- 11.16 ~ 11.17
第18回国立大学図書館協会シンポジウム(西
地区)(於 岡山大学大学院自然科学研究科)
・機関リポジトリ:学術情報コミュニケー
ション機能回復の新たな方向を探る
- 11.17 ~ 11.18
第41回日本医学図書館協会
中国四国部会総会(於 川崎医科大学)

学内

- 17.12. 6 平成17年度第2回附属図書館運営委員会

研修

- ・大学教職員のための個人情報保護セミナー
参加者 古中 秀子、犬飼恵美子、
川上 研三、岡本 和子(8. 1、9. 8)
- ・第1回中国・四国・九州・沖縄地区
大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー
参加者 久磨由美子、中山千佳子(9. 9)
- ・平成17年度ILLシステム地域講習会
参加者 三好美砂子、花田 貴子、長畑美由紀、
田原 敬子、黒原 昌子(9.15 ~ 9.16)
- ・公立大学協会図書館協議会
中国・四国地区協議会主催平成17年度講習会
参加者 岡本 和子(9.27)
- ・平成17年度大学図書館職員講習会
参加者 藤原 智孝(10.11 ~ 10.14)
- ・平成17年度学術情報リテラシー教育担当者研修
参加者 岡本 和子(11.16 ~ 11.18)
- ・岡山県大学図書館協議会平成17年度研修会
参加者 三浦 葉子、藤原 智孝、
西村 朋子、長畑美由紀(11.28)

編集委員会から

早いもので平成17年度も残りがわずかとなりました。今年度は電子ジャーナルの提供数が大幅に増加しました。また、今号でも取り上げていますが図書館内の情報端末数も増加されました。電子情報の利用に関しては、図書館HPで公開しているDigitalLibrary@Newsで紹介していますので、楳と合わせてこちらをご覧ください。

岡山大学附属図書館報「楳」 No.42 平成18年2月28日

発行人 藤森末雄 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700 8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086 252 1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>